

人間科学研究科修士課程論文コンテストの 入賞論文の掲載について

人間科学研究科長 神田信彦

2011年度に続き、昨年度も大学院人間科学研究科では、文教大学学園の経営戦略事業から支援を受け、修士課程在学者及び修了後5年以内の修了生を対象に人間科学研究科修士課程論文コンテスト（以下、論文コンテスト）を行った。これは修士課程在学者や修了者の研究意欲をいっそう高め、研究水準の向上を図ることを目的として企画されたものである。

応募論文は3編（臨床心理学専攻在学生2名、と人間科学専攻在学者1組、であった。審査は各論文について研究科長、各専攻長及び教育研究推進委員長で構成した審査委員会が選任した人間科学研究科教員2名ずつがあたった。

次頁にはじまる樋口真弓さん（2012年度臨床心理学専攻修了）の論文「幼少期の母子関係と青年期の対象関係との関連について—認知的、投影的レベルからの検討—」は優秀賞を獲得した論文である。

同論文は、幼少期の母子関係と青年期の対象関係について質問紙を用いた量的データに加え、面接データ及び母子に関する描画による質的データを併せて分析することによって、母子画の対象関係の投影を明確にすることを試みた意欲的な論文であり、心理臨床場面への応用が期待される。また、審査者からは、独自性の高い研究であることに加え、丁寧な分析や論理性の高い考察が評価された。

なお、人間科学研究科は独自の研究紀要を持たないため、論文コンテストの趣旨に賛同していただいた谷口人間科学部長はじめ人間科学部教員の好意と配慮によって、今回も掲載を認めていただいた。快く掲載を認めていただいた谷口学部長はじめ人間科学教員の方々に心よりお礼を申し上げる。